



“地域のことは地域で考えよう”

2020年1月30日

おきぎん県内景況・速報

2019年12月

一県内景況は拡大しているものの、一部で弱い動きがみられる—
(下方修正)

■個人消費

スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは下回る。

百貨店売上高は前年同月を下回る。

家電卸出荷額は前年同月を上回り、新車販売台数は下回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を上回る。

生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

新設住宅着工戸数は前年同月を下回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数は下回る。

ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで下回る。

ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回る。

■企業倒産

件数、負債総額ともに前年同月を上回る。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2019年12月分)

◎2019年12月 おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は拡大しているものの、一部で弱い動きが見られる

12月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは前年同月を下回りました。百貨店売上高は前年同月を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月を上回りました。新車販売台数は前年同月を下回りました。

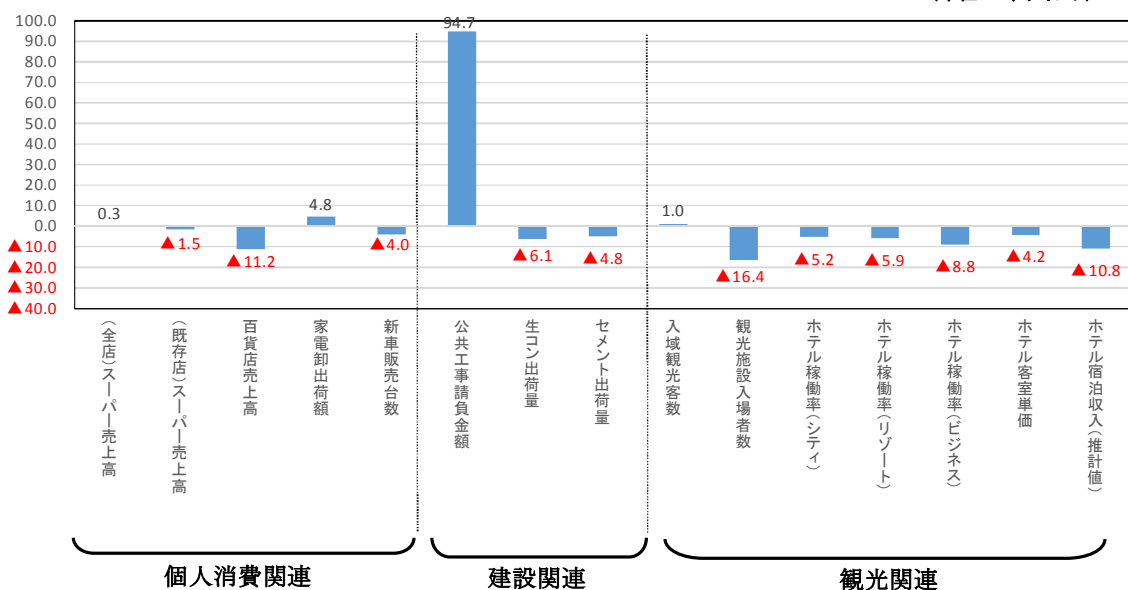
建設関連では、公共工事請負金額は3ヵ月連続で前年同月を上回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を下回りました。

観光関連では、入域観光客数は4ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数は前年同月を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回りました。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調な中、一部で弱い動きが見られ、観光関連では堅調な動きに弱さが見られることなどから「県内景況は拡大しているものの、一部で弱い動きが見られる」と景気判断しました。 (下方修正)

主要景気指標前年同月比

(単位: %、ポイント)



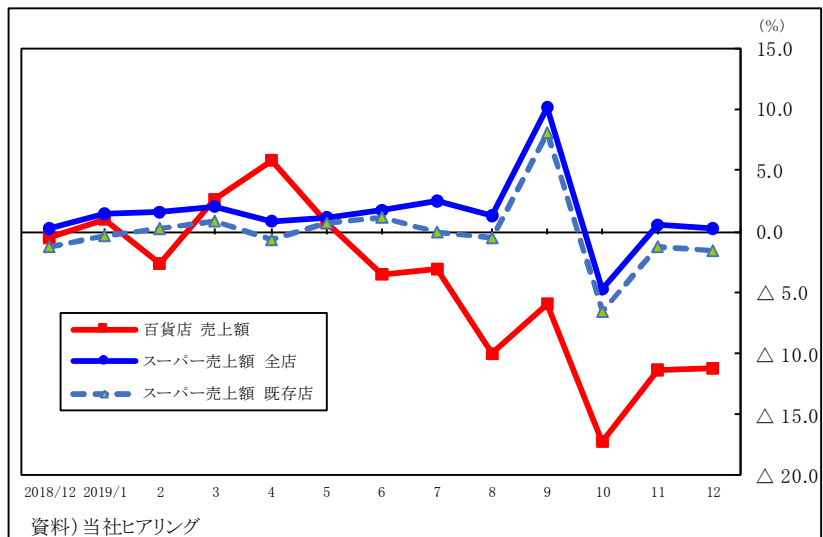


■個人消費： (やや良い)

- ① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは下回る。百貨店売上高は前年同月を下回る。

単位：％

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2018/12	0.3	△ 1.3	△ 0.5
2019/1	1.5	△ 0.3	1.0
2	1.6	0.2	△ 2.6
3	2.0	0.9	2.6
4	0.9	△ 0.6	5.8
5	1.2	0.7	0.7
6	1.7	1.2	△ 3.6
7	2.5	△ 0.02	△ 3.1
8	1.3	△ 0.5	△ 10.0
9	10.2	8.1	△ 5.9
10	△ 4.8	△ 6.6	△ 17.2
11	0.5	△ 1.2	△ 11.3
12	0.3	△ 1.5	△ 11.2



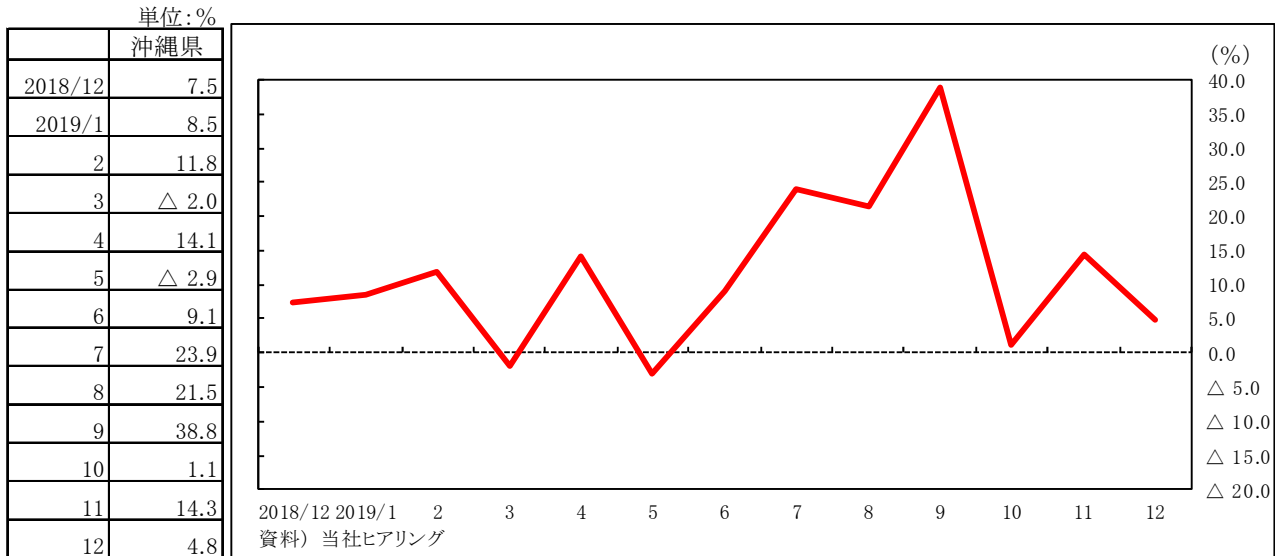
注) 前年同月比

12月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 0.3%増)」は、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。「衣料品(同 2.2%減)」は気温が高く推移した影響により前年同月を下回りました。一方、「食料品(同 0.5%増)」、「家庭用品(同 0.7%増)」は、新規出店効果などにより、前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同 1.5%減)」は、3ヵ月連続で前年同月を下回りました。品目別では、ウェイトの高い「食料品(同 0.4%増)」は、惣菜や簡便商品を中心に全般的に売り上げが伸び、前年同月を上回りました。一方、「衣料品(同 9.4%減)」は、気温が高く推移した影響などから、冬物商材の売り上げが伸びず、前年同月を下回りました。家電や化粧品を含む「家庭用品(同 6.4%減)」は、新設店舗の影響や、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動減などにより、前年同月を下回りました。

百貨店売上高は、インバウンド需要の減少や、消費税増税の駆け込み需要の反動などにより、全般的に売り上げが伸びず、7ヵ月連続で前年同月を下回りました(同 11.2%減)。内訳をみると、「食料品(同 5.0%減)」は、お歳暮企画を前倒しで開催した影響などから、前年同月を下回りました。ウェイトの高い「衣料品(同 11.2%減)」は、販促企画を行うも、消費税増税の駆け込み需要の反動などにより、「紳士服(同 12.8%減)」、「婦人服(同 7.1%減)」など、全般的に売上が伸びず、前年同月を下回りました。化粧品等の「雑貨(同 19.2%減)」は、インバウンド需要の減少により、前年同月を下回りました。靴、バッグ等の「身のまわり品(同 18.2%減)」も、消費税増税の駆け込み需要の反動により、前年同月を下回りました。

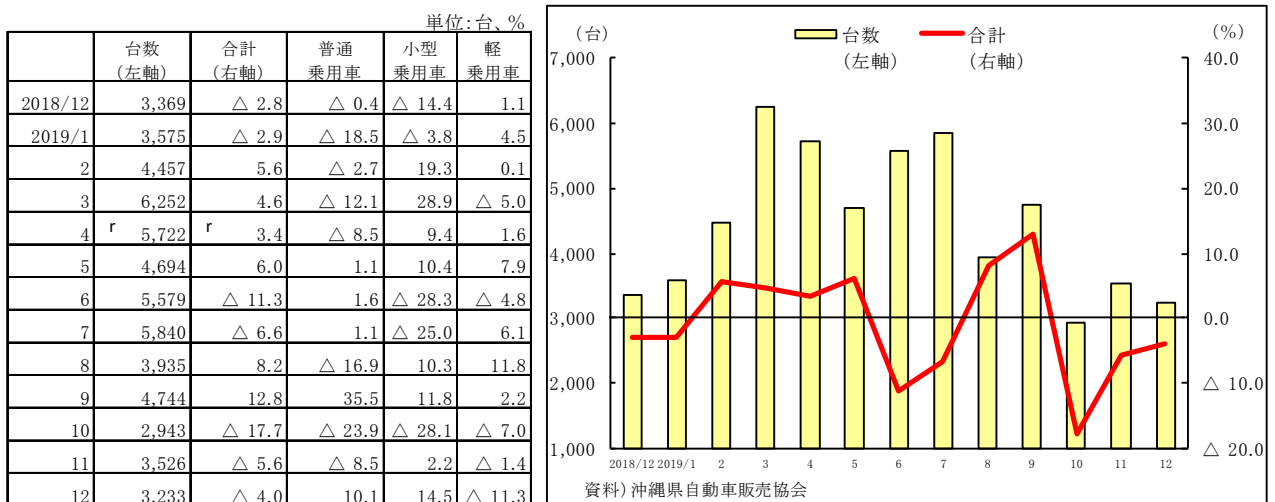
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は7ヵ月連続で前年同月を上回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、テレビ、エアコンなどを中心に売り上げが伸び、7ヵ月連続で前年同月を上回りました(同 4.8%増)。品目別では、「冷蔵庫(同 8.8%減)」、「洗濯機(同 7.5%減)」は、消費税増税の駆け込み需要の反動などにより、前年同月を下回りました。「テレビ(同 3.8%増)」は、4K、8K 等の高価格帯商品が伸び、前年同月を上回りました。また、「エアコン(同 21.4%増)」は、住宅等の新設需要が伸び、前年同月を上回りました。「太陽光パネル(同 113.9%増)」も、前年同月を上回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、3ヵ月連続で前年同月を下回る。



注) 前年同月比

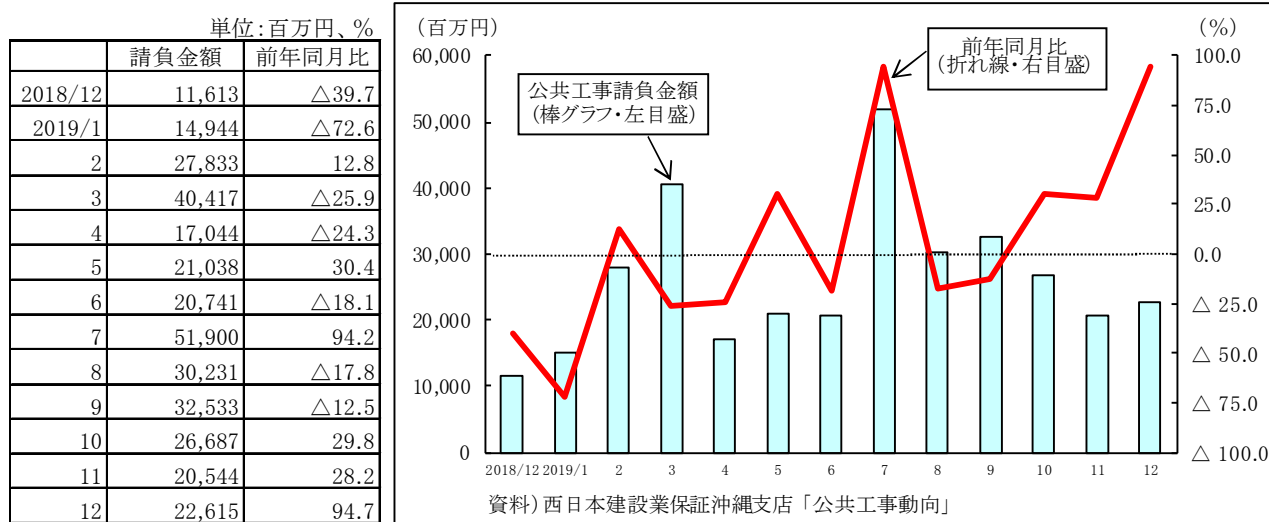
注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

新車販売台数は、全体で3,233台(同 4.0%減)となり、3ヵ月連続で前年同月を下回りました。車種別では、「普通乗用車(同 10.1%増)」は、自家用車需要、レンタカー需要ともに増加し、3ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。「小型乗用車(同 14.5%増)」は、レンタカー需要が反動増となり、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。一方、「軽乗用車(同 11.3%減)」は、レンタカー需要は増加したものの、消費税増税の影響により自家用車需要が伸びず、3ヵ月連続で前年同月を下回りました。

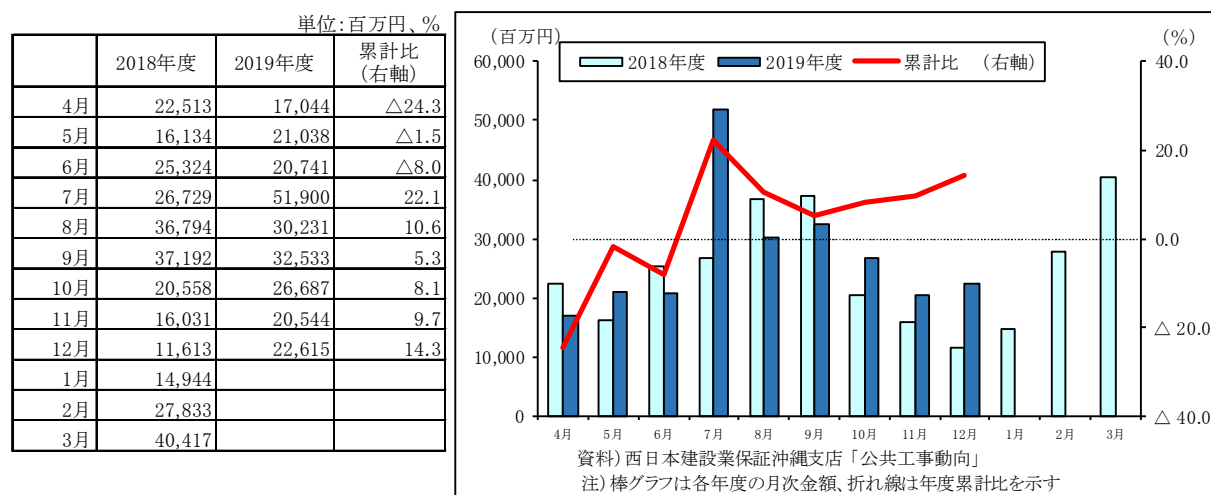
※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

■ 建設関連： (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を上回る。



【参考】公共工事（年度累計）・・・公共工事請負金額は前年同期を上回る。

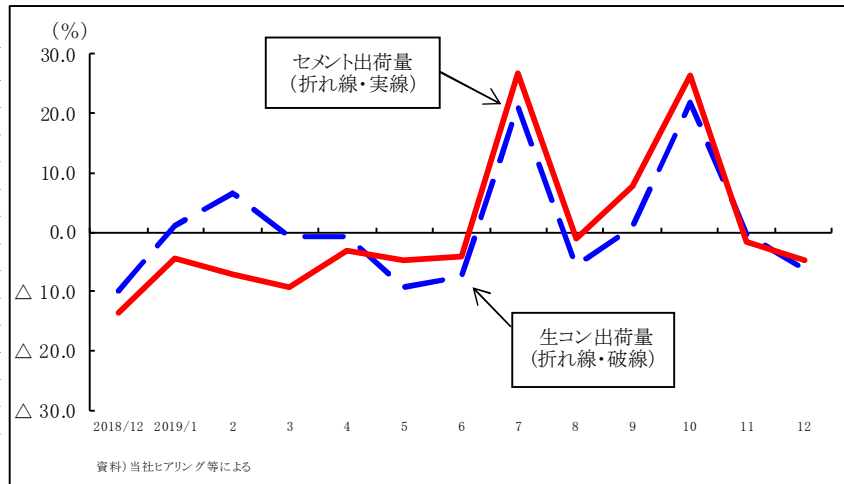


12月の公共工事請負金額は、前年同月比94.7%増の226億1,500万円となりました(3ヵ月連続増)。今年度累計値では、14.3%増となっています。

発注者別でみると、「国(同44.8%増)」や「独立行政法人等(同1,050.6%増)」、「市町村(同19.9%増)」、「その他の公共的団体(同4,593.0%増)」は前年同月を上回りました。一方で「沖縄県(同41.1%減)」は下回りました。

②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

単位:前年同月比(%)		
	生コン	セメント
2018/12	△ 10.1	△ 13.6
2019/1	1.1	△ 4.5
2	6.6	△ 7.1
3	△ 0.8	△ 9.3
4	△ 0.7	△ 3.3
5	△ 9.2	△ 4.7
6	△ 7.6	△ 4.1
7	21.2	26.7
8	△ 5.5	△ 1.2
9	0.7	7.9
10	21.9	26.5
11	△ 0.6	△ 1.7
12	△ 6.1	△ 4.8

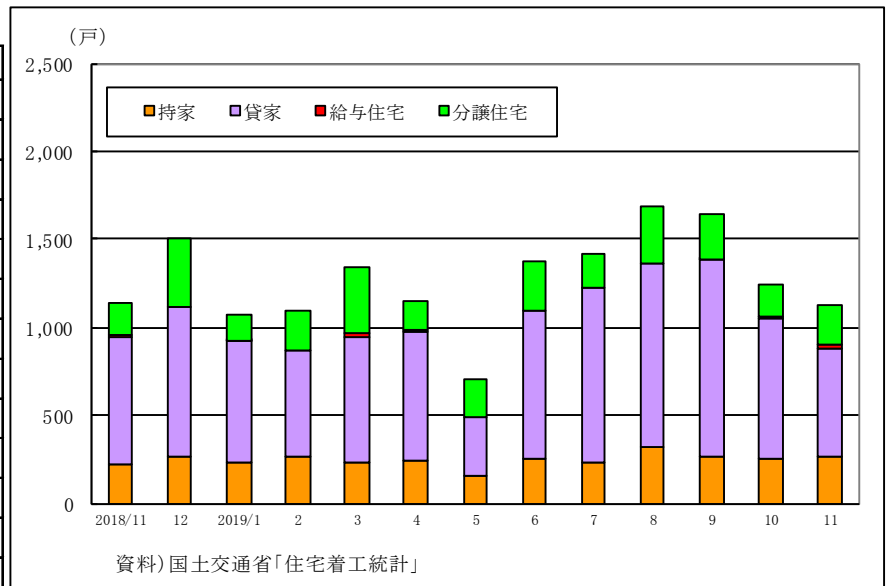


(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

建設資材関連では、**生コン**の出荷量は 6.1%減と 2 ヶ月連続で前年同月を下回りました。内訳では、公共工事向け出荷は、中南部地区の橋梁関連や学校関連出荷などが減少し前年同月より 5.8%下回り、民間工事向けは、北部地区で大型案件の反動減、中南部地区での住宅関連需要減などで前年同月より 6.3%下回りました。**セメント**出荷量は 4.8%減と 2 ヶ月連続で前年同月を下回りました。

③【参考】住宅投資 (11 月)・・・着工戸数は前年同月を下回る。

単位:戸、%		
	着工戸数	前年同月比
2018/11	1,139	△29.7
12	1,507	8.3
2019/1	1,070	△14.2
2	1,093	△32.1
3	1,340	6.9
4	1,153	△1.5
5	707	△38.4
6	1,374	△20.6
7	1,419	△16.0
8	1,683	25.5
9	1,640	10.7
10	1,245	△16.2
11	1,130	△0.8

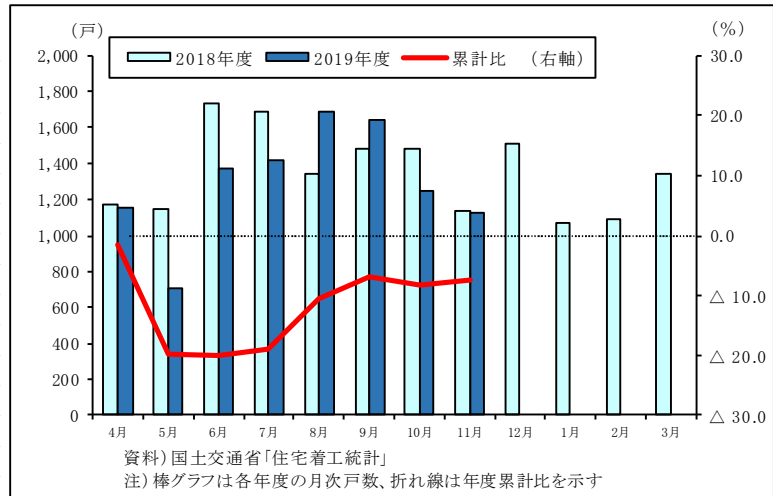


新設住宅着工戸数は、全体で前年同月比 0.8%減の 1,130 戸となり、2 ヶ月連続で前年同月を下回りました。利用別戸数を見ると、「持家(同 23.4%増)」や「給与住宅(同 242.9%増)」、「分譲住宅(同 19.6%増)」は前年同月を上回りました。一方で、ウエイトの高い「貸家 (同 15.7%減)」は下回りました。

住宅投資（年度累計）・・・着工戸数は前年同期を下回る。

単位:戸、%

	2018年度	2019年度	累計比 (右軸)
4月	1,171	1,153	△1.5
5月	1,148	707	△19.8
6月	1,730	1,374	△20.1
7月	1,690	1,419	△18.9
8月	1,341	1,683	△10.5
9月	1,482	1,640	△6.8
10月	1,486	1,245	△8.2
11月	1,139	1,130	△7.5
12月	1,507		
1月	1,070		
2月	1,093		
3月	1,340		



今年度累計値では、7.5%減となっています。



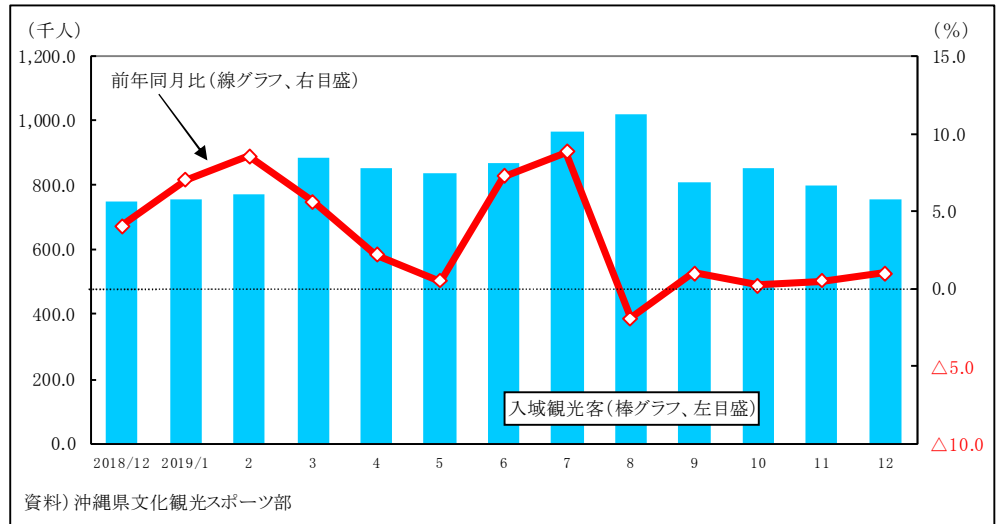
■観光関連： (やや良い)

①入域観光客数（国内客・外国客の合計）・・・・4ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%

	入域 観光客	前年 同月比
2018/12	747.5	4.0
2019/1	753.5	7.0
2	772.2	8.5
3	884.0	5.6
4	851.4	2.2
5	834.9	0.5
6	868.2	7.2
7	963.6	8.8
8	1,021.2	△1.9
9	809.3	1.0
10	851.3	0.2
11	799.2	0.5
12	755.1	1.0

※外国客は乗務員等を含む

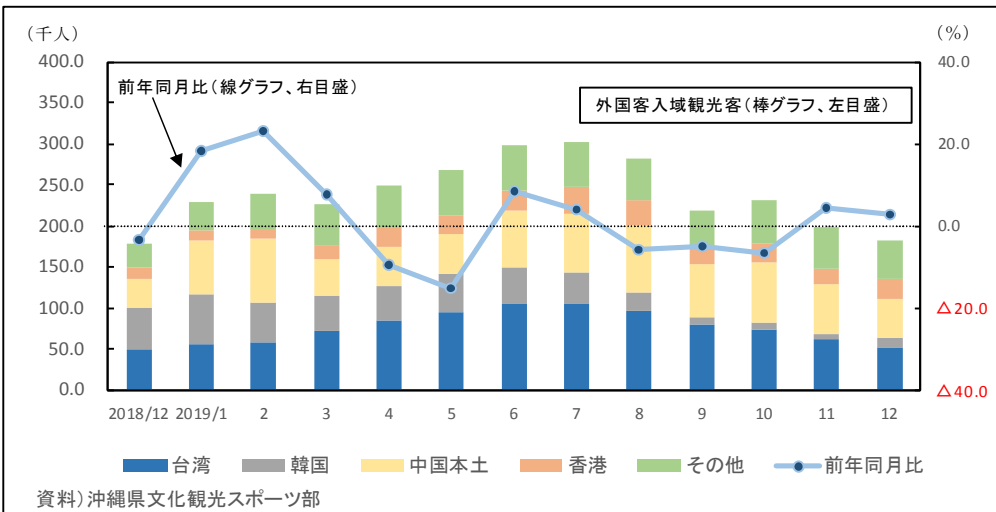


外国客 入域観光客数・・・2ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%

	入域 観光客	前年 同月比
2018/12	177.2	△3.2
2019/1	229.8	18.2
2	240.1	23.3
3	226.6	7.8
4	250.3	△9.6
5	268.4	△15.1
6	298.4	8.5
7	302.8	4.1
8	282.9	△5.7
9	218.7	△5.1
10	230.5	△6.5
11	199.1	4.2
12	182.4	2.9

※外国客は乗務員等を含む



12月の入域観光客数は、7,600人多い755,100人(前年同月比1.0%増)となり、4ヵ月連続で前年同月を上回りました(12月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同0.4%増)」は572,700人と、年末年始の旅行需要の高まりがあったことや、国内クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。

他方、「外国客(同2.9%増)」は、182,400人と2ヵ月連続で前年同月を上回りました。韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便等により空路客は減少したものの、クルーズ船の寄港回数増加等により前年同月を上回りました。

「台湾(同7.6%増)」「韓国(同80.0%減)」「中国本土(同43.6%増)」「香港(同55.5%増)」

※乗務員等を除く2019年12月実績＝全体729,700人(同0.8%減)、外国客157,000人(同5.0%減)、国内客は変わらない。

②観光施設入場者数・・・5ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位: %

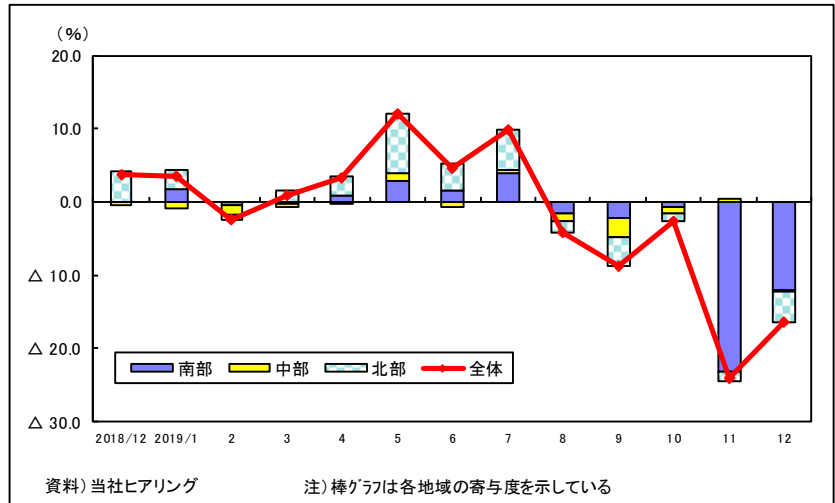
	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2018/12	3.6	0.1	r △ 4.2	9.8
2019/1	3.5	4.2	△ 6.1	5.8
2	△ 2.5	△ 1.4	△ 11.5	△ 1.2
3	0.9	△ 0.4	△ 4.7	3.4
4	3.2	1.9	△ 2.2	5.7
5	12.0	6.4	11.1	17.6
6	4.6	3.5	△ 6.7	7.8
7	9.8	10.8	2.8	10.3
8	△ 4.2	△ 4.1	△ 11.2	△ 3.0
9	△ 8.7	△ 6.3	△ 25.2	△ 7.1
10	△ 2.7	△ 1.5	△ 9.4	△ 2.4
11	△ 24.2	△ 51.7	r 3.8	△ 3.3
12	△ 16.4	△ 28.0	△ 3.3	△ 8.8

※調査対象施設数＝南部6、中部5、北部4施設

※2019年1月より、中部の対象施設数が変更(6⇒5)となったことから、2018年1月以降の数値を遡って改定した。

※2019年3月より、北部の対象施設数が変更(5⇒4)となったことから、2018年3月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。



観光施設入場者数は、全体で前年同月より16.4%減少(5ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同28.0%減と5ヵ月連続、中部は同3.3%減と2ヵ月ぶり、北部は同8.8%減と5ヵ月連続で前年同月を下回りました。

※首里城火災の影響等により、南部は大幅減少となりました。

③ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。

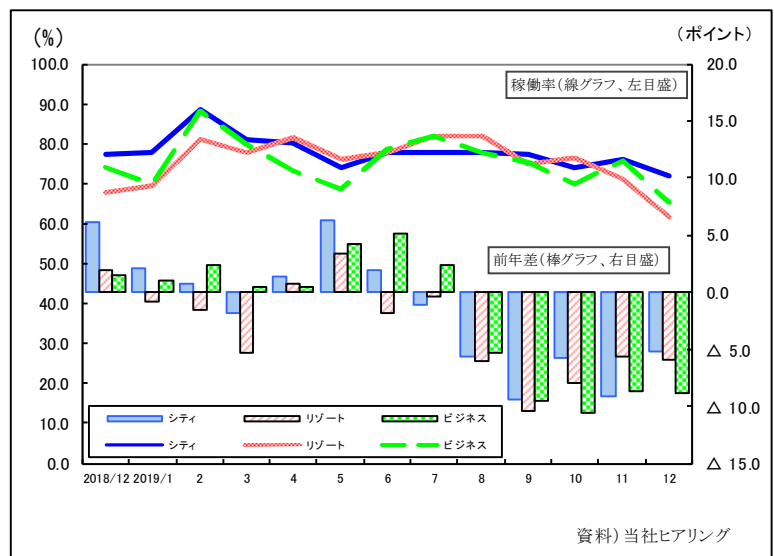
単位: %, ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2018/12	r 77.3	r 67.7	74.2	r 6.1	r 1.9	1.5
2019/1	77.9	69.6	70.0	2.1	△ 0.9	1.1
2	88.4	81.2	88.0	0.7	△ 1.6	2.3
3	81.0	77.8	79.9	△ 1.8	△ 5.3	0.5
4	80.2	81.4	73.4	1.3	0.8	0.4
5	74.2	76.2	68.8	6.3	3.3	4.3
6	77.8	77.7	78.6	1.9	△ 1.8	5.1
7	77.8	81.9	81.8	△ 1.2	△ 0.4	2.3
8	77.8	81.9	77.6	△ 5.6	△ 6.1	△ 5.4
9	77.5	75.0	75.3	△ 9.4	△ 10.4	△ 9.6
10	74.1	76.4	70.0	△ 5.8	△ 8.0	△ 10.5
11	76.3	71.2	75.6	△ 9.1	△ 5.6	△ 8.7
12	72.1	61.8	65.4	△ 5.2	△ 5.9	△ 8.8

注) シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス4ホテル

注) 2019年11月より、ビジネスホテル対象施設数が変更(6⇒4)となったことから、2018年11月以降の数値を遡って改定した。

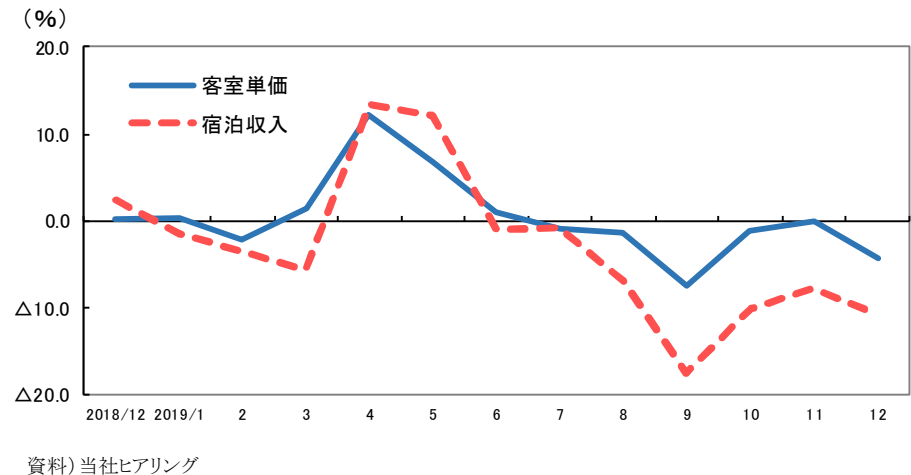
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。



県内ホテル稼働率は、シティホテルが72.1%と5.2ポイント減少(6ヵ月連続)、リゾートホテルが61.8%と5.9ポイント減少(7ヵ月連続)、ビジネスホテルが65.4%と8.8ポイント減少(5ヵ月連続)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入も下回る。

	単位: %	
	客室単価	宿泊収入
2018/12	0.1	r 2.3
2019/1	0.3	△1.5
2	△2.2	△3.6
3	1.5	△5.6
4	12.3	13.4
5	6.7	12.2
6	1.1	△1.0
7	△0.9	△0.8
8	△1.4	△7.0
9	△7.4	△17.5
10	△1.2	△10.2
11	△0.1	△7.8
12	△4.2	△10.8



※対象施設数: 26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 4.2%減と前年同月を下回りました。**宿泊収入**も同10.8%減と前年同月を下回りました。

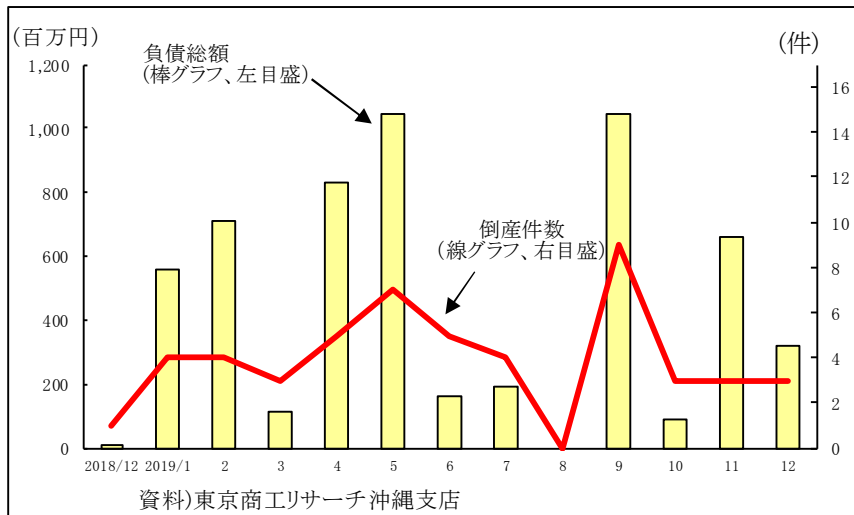


■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

単位：百万円、件

	負債総額	倒産件数
2018/12	10	1
2019/1	560	4
2	708	4
3	110	3
4	832	5
5	1,042	7
6	163	5
7	190	4
8	0	0
9	1,045	9
10	86	3
11	660	3
12	318	3



12月の企業倒産件数は、3件(うち大口倒産は2件)となり、前年同月より200.0%上回りました。
負債総額は3億1,800万円となり、前年同月より3,080.0%(約31.8倍)上回りました。

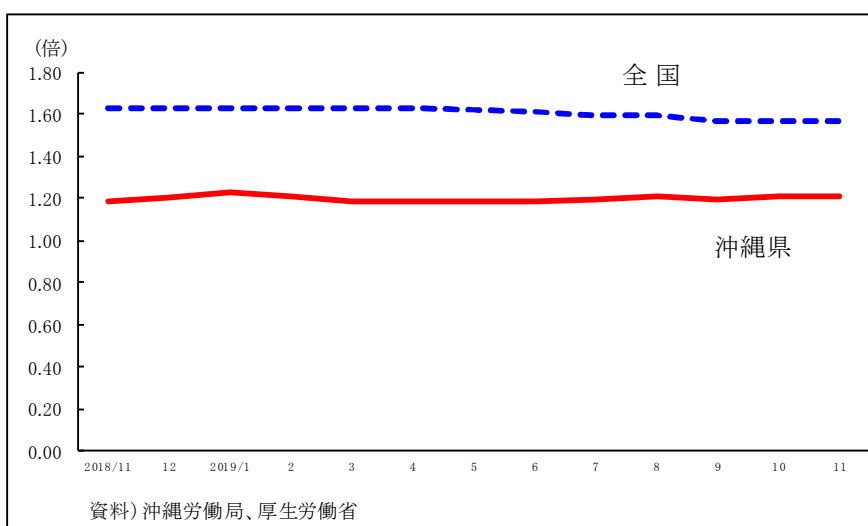


雇用関連： (良い)

【参考】有効求人倍率(11月)・・・沖縄、全国はともに前月と同水準。

単位：倍

	沖縄県	全国
2018/11	1.18	1.63
12	1.20	1.63
2019/1	1.23	1.63
2	1.21	1.63
3	1.18	1.63
4	1.18	1.63
5	1.18	1.62
6	1.18	1.61
7	1.19	1.59
8	1.21	1.59
9	1.19	1.57
10	1.21	1.57
11	1.21	1.57

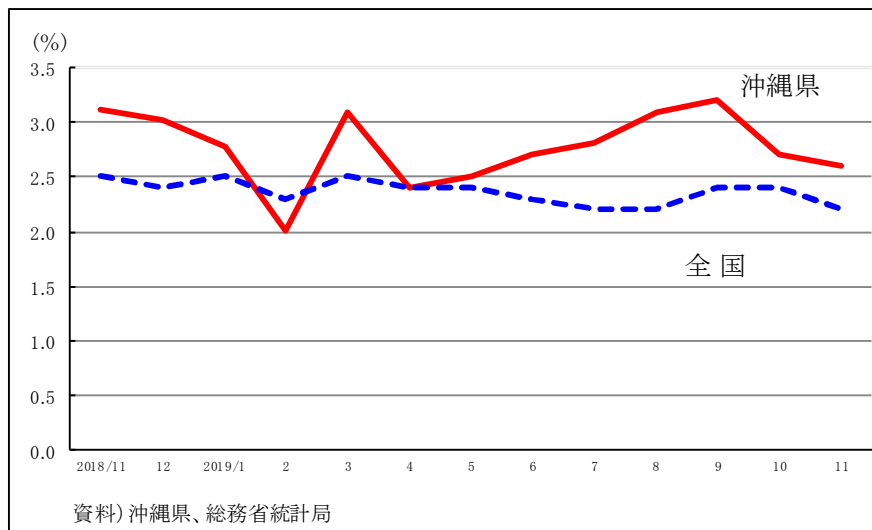


注) 季節調整済

11月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比1.7%増の31,333人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比1.1%増の25,823人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.21倍となり前月と同水準になりました。

【参考】完全失業率（11月）・・・沖縄、全国はともに前月より低下。

	単位: %	
	沖縄県	全 国
2018/11	3.1	2.5
12	3.0	2.4
2019/1	2.8	2.5
2	2.0	2.3
3	3.1	2.5
4	2.4	2.4
5	2.5	2.4
6	2.7	2.3
7	2.8	2.2
8	3.1	2.2
9	3.2	2.4
10	2.7	2.4
11	2.6	2.2



注) 季節調整済

11月の完全失業率(季節調整値)は、2.6%となり前月より0.1ポイント低下しました。